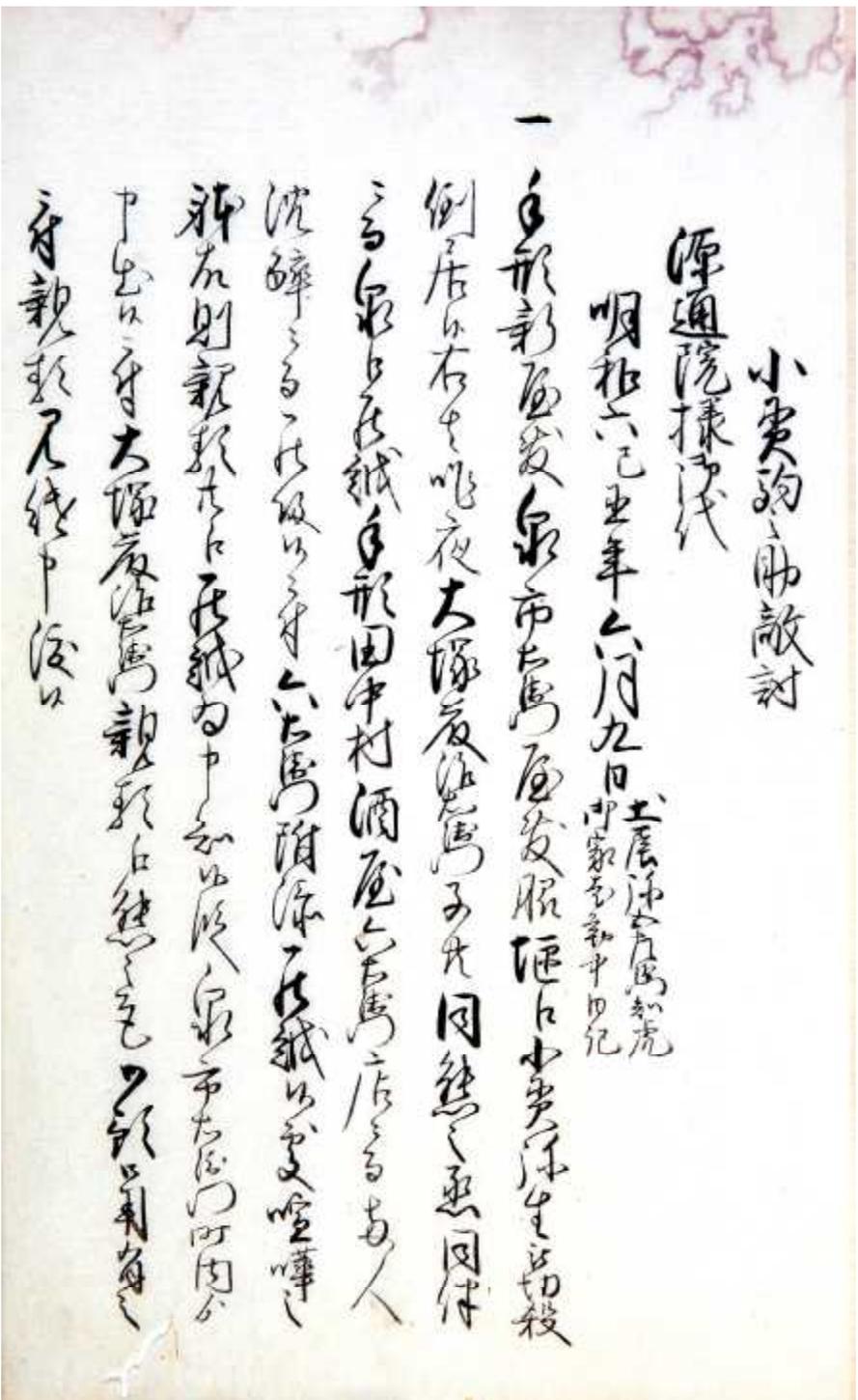


第一回 「候文を読む」 「国典類抄」を題材に」

(「国典類抄 後編雜部二十九」：AS二〇九—一七八—二九)

【原文】



【解説文】

小貫駒之助敵討

源通院様御代

明和六己丑年六月九日 (土屋弥五左衛門知虎御家老勤中日記)

一手形新屋敷泉市右衛門屋敷脇堰江小貫弥生被切殺

倒居候、右は昨夜大塚藤治右衛門子共・同熊之丞同伴

二而泉江罷越、手形田中村酒屋六右衛門店二而兩人

沈醉二而罷帰候二付、六右衛門附添罷越候処喧嘩之

躰故、則親類共江罷越為申知候段泉市右衛門町内より

申出候二付、大塚藤治右衛門親類江熊之允御預御用有之

二付親類見継申渡候

【原文】

安永二癸巳年七月十六日久綱日記

一 石井嘉左衛門・金沢典膳呼候申合候中書已正月
美濃御用番中二明和六丑年小貫弥生横死候
其節同人嫡子駒之助拾二歳二罷成候二付、幼年之
事故親類江被預置、拾六歳二罷成候ハハ御届可申上
旨被 仰渡候処、今年拾六歳二罷成候二付、親類
共より御届申上候、

【解説文】

安永二癸巳年七月十六日（久綱日記）

一 石井嘉左衛門・金沢典膳呼候而申合候は、当巳正月
美濃御用番中二、明和六丑年小貫弥生横死いたし
其節同人嫡子駒之助拾二歳二罷成候二付、幼年之
事故親類江被預置、拾六歳二罷成候ハハ御届可申上
旨被 仰渡候処、今年拾六歳二罷成候二付、親類
共より御届申上候、

【原文】

十一月二日 小野寺主水道維御家老勤中日記

一 六日馬中使以小貫弥生子共駒之助敵討交新倉付
御丸之内上野増上寺内日光二而見当申候得は、其
公道向々事森勢甚茂作上取致了不汗出國各
所も御所奉り、之由通々言上御身も中野中
小貫駒之助共年節親討事相害之途敵も大隊進々
之者之由是爲り、今年孫之威、之由親敵討
爲り、交新、之由以取之由仕了之由、御丸之内
御丸之内上野増上寺内日光二言上事申候得は、
不之由も勝負之由威の由、御丸之内勝負も變り候
之由、後以之者、御丸之内も只扶持之由も是れ由、
御丸之内上野増上寺内日光二言上事申候得は、

【解説文】

十一月二日（小野寺主水道維御家老勤中日記）

- 一 六左衛門申聞候、小貫弥生子共駒之助敵討度願二付御領内相尋候得共不見当、出国之御暇申立候節、公辺向之事喜多野嘉藤治江相尋候所、弥出国二及候節は御町奉行二御届言通二而候、其次第は本家中小貫駒之助、何年前親弥生切害二逢、敵は大塚熊之允と申者と相見得申候、今年拾六歳二罷成親敵討留申度願二御座候、此段御届仕候旨被仰上候得は、御丸之内上野増上寺内日光二而見当申候得は、其所二而は勝負不相成候、外二引出し勝負相決候段被仰渡候、其者之手廻江は御扶持二而も被下候間、安心致相尋候様二被 仰候事之由申聞候由